

園長のまなざし

第8回

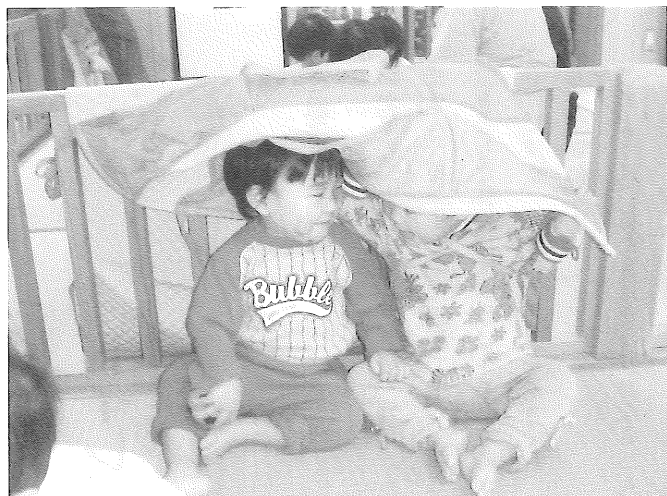
かわいい かくれんぼ

松永 克子

一歳五か月のＹちゃんが、「おいで、おいで」と手招きをして、かくれんぼが始まります。「かくれんぼ」といつても身体は丸見えで隠れているつもりなのです。

事の始まりは、部屋のちよつとしたくぼみのコーナーに私が隠れて、「かくれんぼしよう」。そうしよう。もういいかい。まあだよ」と歌いながら遊びに誘い、くぼみから顔をのぞかせると、大うけでみんなが寄って来て隠れました。そんな遊びを何度か繰り返しているうちに、Ｙちゃんが、自発的に「おいで」と手招きをしてお友達を呼んだのです。Ｙちゃんのクラス担任と私はほほ笑みながら見守っていると、なんと！Ｙちゃんの誘いで数名の子が、かくれんぼを始めたのです。絵本置きのタペストリーに無理やり隠れる子もいました。

Ｙちゃんは四姉妹の末っ子で、お家でもたくさんお姉さんたちに遊んでもらっているのです、友達とのつな



がりを求めるタイプでした。しかし何よりも担任は、
○歳児のころから仲間づくりを意識して保育にあたってきたのです。

思えば入園当初は、這い這いやつかまり立ちの子、
ようやく歩き始めたばかりの子どもたちが、歩行の完成と共に、行動する自由をさらに広げ、仲間遊びに転じたのです。

こんなこともありました。Mちゃんが散歩のジャケットを着るのを嫌がり、だだをこねて、畳にひっくり返って激しく泣いていました。担任が、立ち直れるよう働きかけていると、一歳四か月のAちゃんが寄ってきて、Mちゃんの肩をポンとたたきました。するとどうでしょう、Mちゃんはケロリと泣き止んで、散歩のジャケットを保育者に着せてもらったのです。

赤ちゃんだって、すごい力をもっていて、仲間と共に
感じ、愉快な、素敵な仲間と響きあう事ができるので
す。赤ちゃん時代を謳歌してほしいと思います。

(こぐま保育所園長)